

大学評価の「これまで」と「これから」
ーこの20年間を振り返るー

文部科学省によって認証された評価機関による大学評価が法的に義務づけられてから、すでに20年以上が経った。今年度は第3期認証評価の最終年度である。「内部質保証」がキーワードとなり、大学における意思決定が内部質保証に対する責任を負う全学的組織によって適切に行われているかが問われている。思い起こせば、2004年、大学評価が法的に義務づけられようとするさなかに、「大学評価の具体的ありようをめぐる議論する場」として大学評価学会は設立された。それは、大学人が学問の自由と大学の自治の担い手となるには、大学評価に関する議論を主体的に行い、総体としての大学の役割を語る必要があったからだ。その目的を達成するためには、大学の評価は、誰によって、何を対象に、どのように行われるべきか、そして、大学評価の目的が達成されているかが検証されなくてはならない。

今回の全国大会の会場となる西南学院（福岡市）は、南部バプテスト派の宣教団によって設立されたキリスト教学校を源流としている。戦後、新制大学として設立された西南学院大学の初代学長 W. M. ギャロット（1910-1974）は、1966年に開催された「西南学院創立50周年記念講演」において、「西南学院は、学校として、事業体として永遠のものではありません」と発言した。もし西南学院の構成員が拠り所とすべきキリスト教の精神（spirit）から離れてしまったならば、たとえ立派な校舎が存在し、そこに教職員や学生が集っていたとしても、何の意味もないことを意味している。すなわち、西南学院に対する評価の基準は spirit なのだ。これは大学の評価を考える上でのひとつの視点を提供してはいないだろうか。

大学人である我々は大学の本質をどのようにとらえ、その本質を維持・発展させるためにどのような具体的行動を起こすのか。そして、その時に我々が持つべき大学評価の視点とは何を基準とすべきだろうか。今回の全国大会では、これまでの本学会の歩みを振り返りながら、総体としての大学、そして個別の大学の評価のありようを今一度、一緒に考える機会にしたい。

大会日程

3月1日(土)

9:00～	大会受付
9:15～9:25	開会行事
9:30～12:30	自由研究Ⅰ、ポスター発表概要説明
12:30～13:30	昼食・休憩
13:30～14:15	会員総会
14:30～17:30	大会シンポジウム
18:00～20:00	情報交換会(対面参加のみ)

3月2日(日)

9:00～	大会受付
9:30～12:00	自由研究Ⅱ
12:00～13:30	昼食・休憩
12:45～13:15	ポスター発表 コア・タイム
13:30～15:00	課題研究Ⅰ(教職協働)
15:10～16:40	課題研究Ⅱ(発達保障)
16:45～17:00	閉会行事 第IX期代表理事あいさつ

【大会参加要領】

- ① 第22回全国大会は対面方式のみで開催されます。参加ご希望の方はかならず事前申込をお願いします。本学会ウェブサイト<最新情報>(<https://aue-web.jp/>)にある第22回全国大会参加申込案内または以下のリンク先より、2月26日(水)までにお申込みください。



<https://forms.gle/HqoQkGW7RWWUp4n78>
(Googleフォームを利用しています)

- ② 参加費用：会員は無料、非会員は2,000円(学生・大学院生は500円)
③ 会場ではeduroamの利用が可能です。
④ 懇親会・情報交換会は、キャンパス周辺の飲食店での小規模な開催を検討しております(会費は5,000円)。会場設定の都合もありますので、①の「事前申し込み」の際に参加希望の有無をお知らせください。

【会場へのアクセス】

西南学院大学 西南コミュニティーセンター
814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号
<https://www.seinangu.ac.jp/assets/users/7/files/12SWCC.leaf.pdf>
福岡市営地下鉄空港線 西新駅
3番出口から徒歩5分

3月1日（土）9:00～（大会受付開始）、9:15～9:25（開会行事）

9:30～12:30 自由研究Ⅰ <発表20分・質疑応答10分>

司会 安東 正玄（立命館大学）、藤原 隆信（筑紫女学園大学）

- ① 医療的ケア児者を含む重度障害児者の生涯学習支援 垂髪 あかり（鳴門教育大学）
- ② 専門学校の「高等教育化」と高等教育段階の職業教育 瀧本 知加（京都府立大学）
- ③ 国立大学移行以前の琉球大学における学生の地位と権利 日永 龍彦（山梨大学）
- ④ 認証評価制度の大学評価法制史的検討 光本 滋（北海道大学）
- ⑤ 私立短期大学における「高等教育の修学支援新制度」利用の現状と課題
ーA短期大学学生へのアンケート調査よりー 川内 紀世美（大阪健康福祉短期大学）

ポスター発表概要説明

- ・日本のキリスト教学校における「建学の精神」の浸透度 伊藤 彰浩（西南学院大学）
(12:30～13:30 昼食・休憩)

13:30～14:15 会員総会

14:30～17:30 大会シンポジウム：大学評価の「これまで」と「これから」ーこの20年間を振り返るー

司 会 光本 滋（北海道大学）

パネリスト 藤原 隆信（筑紫女学園大学）：大学評価は「何を」「どのように」評価すべきか
ー多様な大学のあり方と多様な大学評価ー（仮）

山口 真紀（神戸学院大学）：大学のダイバーシティ化をめぐる論点：「女性支援」から「包摂」へ

伊藤 彰浩（西南学院大学）：制度としての大学評価：評価者は何に達成感を感じるのか？

18:00～20:00 情報交換会

3月2日（日）9:00～（大会受付）

9:30～12:00 自由研究Ⅱ（対面での発表）<発表20分・質疑応答10分>

司会 中井 睦美（大東文化大学）、松下 尚史（岡山理科大学）

- ① 韓国における国家奨学金の予算増額に係る政策決定 ー国会会議録分析にみる受益者負担主義の下での公財政の拡充ー
多胡 太佑（尹太佑）（北海道大学大学院博士後期課程）
- ② 公立大学は誰のものかー法人化による変化に着目してー 川村 和弘（北九州市立大学）
- ③ 高校・大学等修学支援に係る自治体施策：訪問調査の進展状況 渡部 昭男（大阪信愛学院大学）
- ④ 短期大学認証評価における障害学生支援の受け止め方 國本 真吾（鳥取短期大学）

(12:00～13:30 昼食・休憩)

12:45～13:15 ポスター発表（コア・タイム）

13:30～15:00 課題研究Ⅰ

教職協働：大学職員の内発性に基づく役割モデルの再構築に向けた国際比較研究〈6〉

座長 深野 政之（大阪公立大学）

<趣旨>コロナ禍による海外渡航制限により3年余りにわたり海外訪問調査がかなわなかったが、2023年8月に大学行政学会関東地区研究会の協力を得て韓国・釜山の3大学（釜山外国語大学、東明大学、東義大学）を訪問し現地教職員へのインタビューと意見交換を行った。2024年12月には、東義大学職員のキム・ドンジュン氏を招聘し、研究会を行った。今回は大学職員の新たな役割モデルの提言に向けた具体的なテーマに関わる議論を行っていきたい。

話題提供：大島英穂氏（元・学校法人立命館職員）

「日本の大学職員の仕事経験ー大学組織の特性と大学職員の業務内容ー」

（文献）大島英穂『大学職員の仕事経験の探究：業務と仕事への取り組み方の分析』

東信堂、2024年（<https://www.toshindo-pub.com/book/91893/>）

(15:00～15:10 休憩)

15:10～16:40 課題研究Ⅱ

青年期の発達保障：「教育現場における学修・学生生活評価の実態と影響ー生徒・学生の発達保障から考えるー」

座長 西垣 順子（大阪公立大学）

<趣旨> 2006年に教育基本法が、2007年に学校教育法がそれぞれ変更されたのを受けて、いわゆる「学力の3要素」が学校教育を通じて育成すべき資質・能力とされ、高大接続に関する議論等を通じて大学教育のあり方にも影響を持つようになっている。その影響は制度的なものだけではない。学生たちの学校教育経験は彼女・彼らの大学での振る舞いを大きく規定する。学生の現状を理解する上で、彼女・彼らがどのような学習・評価経験をしてきているのかを生徒・学生の立場から理解し、大学入学後にどのように自らの経験と向き合っていけるのかを、それらをどう支援できるのかも含めて問うのは、学生の発達保障を基軸にした大学評価のあり方を検討する上で重要な視点と思われる。今回は、次の2つの報告をもとに、学生達の評価経験とその背景について考え、子ども・若者が自由に学び育つことのできる社会や教育を、どう作っていけるのかを考えたい。

報告1：川地 亜弥子（神戸大学）：課外活動・自治的活動における目標と評価：子どもの権利保障の観点から

報告2：中山 弘之（愛知教育大学）：課外活動・自治的活動も視野に入れた大学生の発達と大学評価ー社会教育の立場からー

16:45～17:00 閉会行事